

○研究内容○

狭義の文学作品ではなく、日記、手紙、裁判記録、新聞記録それから各種法律など、文字で表記された様々なものを研究対象とした、中世ドイツ語圏の人々の生活史です。元々はドイツ文学が専門でしたが、総合科学部としての授業を展開するために自己改革をして、非常に広い意味での文学を手がけるようになりました。一番力をいれたのは嬰兒殺し、子殺しの研究です。中世ヨーロッパでは、私生児とその母親は様々な場面で差別を受けていました。私生児は職人の親方にはなれなかったんです。彼らの境遇を歌った民謡や、私生児の母親が守られる事のなかった法律の制度など、古色蒼然としたドイツ語の向こうから聞こえて来る庶民の声に耳を傾けています。

自分の関心と結びつけられることには何でも貪欲に挑戦すること、これを忘れちゃあいけないと思っな。

取って、そこに息を吹き込むんです。辞書にも残っていない古いドイツ語の単語の意味を類推し、できるだけ折り目のきちんとした日本語に翻訳して、一人でも多くの方に読んでいただき、過去の人々の肉声を持つ価値を知ってもらいたいと思っっています。

○学生時代○

ベートーベンが好きで、彼の伝記やら本やらを中学生の頃にたくさん読みました。ベートーベンの伝記には必ず一度はゲーテが登場していたので、ゲーテを読もうと考えるきっかけになりました。大学に入ると、ゲーテを翻訳ではなく原文で読みたい。ドイツ語の勉強に明け暮れたい。ゲーテのために生きたいと思いを、ゲーテに近づぐためにドイツ語を勤勉に勉強したことが、学生時代の思い出になっています。今でもゲーテは大好きで一番大きい二四三巻の全集から小さな数巻の選集まで、ゲーテの全集は我が家に何冊あるのかわからないくらいです。

○趣味○

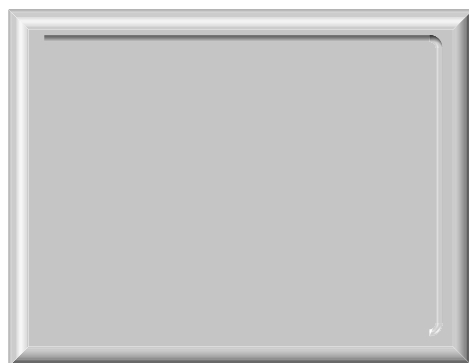
音楽を聴くことです。もっぱらベートーベンとモーツァルト、たまにバッハ、忘れた頃にブラームス、年に一回チャイコフスキー。だいたい

ベートーベンとモーツァルトで、飽きないですね。

○学生に一言○

自分のやっていないことをやっている人に対しては一目置きなさい。尊敬できない人もいるから、それは尊敬しなくていい。でも、教えを請うためにせめて一目置きなさい。自分の専門分野以外のことの専門家はなれませんが、そこでの知見、研究成果を取り入れることはできません。自分の専門分野に重点を置きつつ、総合性を追求してみてください。自分の関心と結びつけられることには何でも貪欲に挑戦すること、これを忘れちゃあいけないと思っな。

(担当 17生 宮下 綾奈)



○研究内容○

僕の研究は、一言でいうと発展途上国（インド）と日本をフィールドにした貧困問題の調査研究です。インドでは貧困家族の子どもの教育に関心を寄せています。日本では昨年まで札幌にいたせいで、北海道の低所得家族や札幌のホームレスの人たちを対象に研究を進めてきました。ホームレスについては調査だけではなく、彼らを支援する団体を立ち上げて活動もしていたんですよ。仕事のシエアでは、日本とインド半分半分くらいでしょうか。これまで「なんでインドと札幌のホームレスなのか？」とよく聞かれましたが、自分の中では、低所得、貧困っていう状態に置かれている人たちの生活の研究であり、彼らがどうやってたら今の状態を抜け出せるかという問題意識でやっているわけで、そうかけ離れたことをやっていると思っではないのです。

○きっかけ○

インドに関心を持ったのは、学生の頃、アジア貧乏旅行をするのが好きだった延長線です。貧困や社会福祉については、学生のころから「なぜ人は社会福祉という形で人助けをわざわざするのか」ということについて不思議で不思議で、それを知りたくて、研究をするはめになったという感じですね。

○学生生活○

学部の間は、あまり「優秀な」学生ではありませんでした。途上国に行ったり、そのためのアルバイトに追われたりしていました。あと、封印しているのですが友人と同人誌みたいなものを作っていました。それは考えてみたら、「こっこ遊び」だけ、勉強というか研究のまねごとですよね。自分で本を読んで自分でまとめるということをやっていたわけです。その代わり、そんなことをやっていたから、授業はあんまり出なくて。必修の科目を落として、留年はしなかったんですが、再履修ばかりやっていた学生でした。

○趣味○

今、趣味って言えるのは釣りです。学生の頃に山登りをやっていたのですが、体力的に面倒くさくなり、川

の釣りに切り替えました。

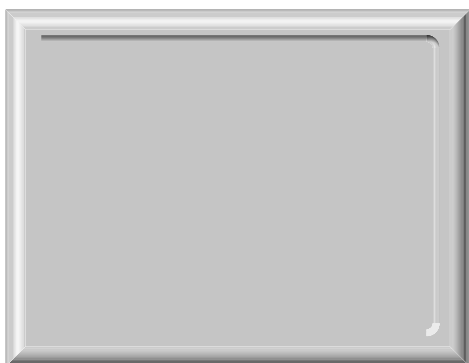
まあでも、魚釣っていうか、川の中を歩くのが好きなのかな、緑の中を……。仕事のことを考えずにすみすから（笑）。

○学生に一言○

四年間をのびのび使ってください。勉強、バイト、趣味、恋愛等等、することはたくさんありますが、もし勉強をメインテーマにするならば、人から「やりなさい」といわれなくてもやる、場合によっては人から「やめろ」といわれてもやめないくらいの情熱をもって熱中してほしいですね。

（担当 18生 伊東 遥）

人から「やめろ」といわれてもやめないくらいこの情熱を持って熱中してほしい。



○研究内容○

僕の専門は心理学、中でも社会心理学という領域です。社会心理学は、人と社会がどんなものであるかというところを研究するためにあります。人と社会の間には、対人関係もあれば、集団や組織もあります。さらに社会は経済システムや政治制度の違いや文化的な差を含んでいます。こういう複数の要素からなる社会と人間の行動との関係を明らかにしようとするのが社会心理学です。

中でも僕が興味を持っているのは、ネットワークや対人関係です。人と社会は、個人を最小単位として考えれば、二者関係もあり、集団や組織もあり、重層的な階層性を持っています。この階層の間の相互影響過程を明らかにしたいと思っています。要するに、個人が行動をとることで集団が変わる。集団が変わることで個人が変わる。集団が変わることと社会と個人が同時に変わる。このように相互に影響しあっている。

自分の能力、優秀さを客観的に理解し、
自信を持って自己表現をしてほしい。

こういったことの全体を的確に捉えることのできる仕組みを社会心理学の知識と手法を使って構築したいというのが、僕の見果てぬ夢です。

○きっかけ○

本を読むのが好きで、高校時代にある本を読んで、心理学を勉強したいと思いました。だけど、心理学の研究者になるつもりは全くなく、文章を書いて一生を過ごせたらと思っています。その一つの選択肢として新聞記者になる道もあると思います。ある大学の社会学部に入りました。そこで、新聞記者になるべく勉強をしたのですが、これが全然面白くなかった。失敗したなと思って、悶々としているうちに、専門課程に入り、社会学部や集団力学という集団の研究の授業を聞いたんです。これが面白かった。この授業を受けたときに、昔から個人や集団に対して問題意識を持っていたこと、心理学を勉強したいこと、新聞記者になるのも面白くないからやめようということの三つが一気に解決しました。そこから研究者を目指すと思いましたね。

○学生時代○

一、二年生の頃はパチンコとマージャンと読書、この三つですね。本

はよく読みました。特に坂口安吾の「墮落論」という本は心に残っています。僕が大学時代にもう一つ経験したのはアルバイトです。遊びもしたけど、いわゆる苦学生で、学費と自分の生活費を稼ぐのに一生懸命でした。

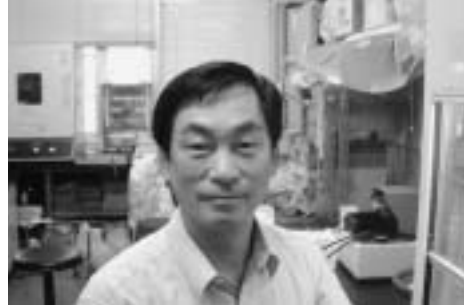
○学生に一言○

総合科学部の学生は常に異なる領域の人と共同のテーマについて考えることを当たり前だと思っている。だから、いまいち総合科学部の良さが分かってないだろうと思います。でもこんな環境、他にはないんです。実際に異なる領域の人達とつながるかどうかということではなく、何かのときにすぐにつながるということが当たり前にある。この良さに気がついて欲しいです。

あと他の大学など広い世界と関わっていく中で、自分の能力、優秀さを客観的に理解し、自信を持って自己表現をしてほしいです。自信を持っている能力を、人に主張した瞬間、その能力には責任が伴う。能力は責任なんです。自分をしっかり見つめて、社会に向けて私はこれができる、とやって、広大に来るだけの学力がある人間としての責任を、社会に向かつて果たして欲しい。

(担当 18生 荒川 洸一)

やさざき たけし
山崎 岳
研究室
生命科学プログラム



○研究内容○

今までは副腎の作るステロイドホルモンへの環境ホルモンの影響を調べていましたが、これからはステロイドホルモンの脳への作用を調べようと思っています。脳で作られるステロイドホルモンは副腎で作られるものの千分の一ほどの量しかないので研究はしづらいですが、分析技術が高感度になって検出可能になったことと脳科学の進歩もあり、脳でのステロイドホルモンの研究に移行しつつあります。環境ホルモンについての研究成果を基に、環境汚染物質の脳への影響を脳でのステロイドホルモンの変化で見る、ということを目指しています。

○きっかけ○

理学部化学科で、四年生から修士までの三年間は地球化学という分野で窒素酸化物の研究をしていました。博士課程に行く時、窒素を分解する微生物の研究をしないかと生化学

学の研究室から誘われ、生物の絡んだ地球科学をしたいとの思いもあって研究室を移りました。そこで行った微生物のチトクロムという酵素の研究の関係で広島大学に来ました。

それまでの微生物のチトクロムの研究から哺乳類のステロイドホルモンをつくるチトクロムの研究をするようになったことが大きな変化でした。主にウシなどの内臓から酵素を取り出して調べる生化学の研究をしていましたが、環境ホルモン騒ぎが起きた時に、もともと環境化学をしていたので環境ホルモンのステロイドホルモン合成に与える影響についての研究を始めました。やがて、環境汚染物質が脳にも作用するとわかり、脳でのステロイドホルモン合成について他の研究室と共同研究をしていたこともあり、今の研究が始まりました。

○学生時代○

天文部の創始者として楽しく学生時代を送りました。大学に入った時から研究者になりたかったので真面目に勉強もしました。半分勉強をして半分クラブをしたという感じです。学生としてやりたいことは思う存分やったので、学生時代に戻りたいとは思いません。

○学生に一言○

総合科学部は、学生は自主的に自分を高めるものだという前提に基づいた、性善説で成り立っている恐ろしいところでは、他の学部のように必修に縛られていて勉強をしないと卒業できないシステムと違い、勉強や単位に関しての縛りが少ないので、ぼつとしていると自分を磨かないまま卒業できてしまいます。アクティブな人にはいいシステムであり、分野を超えて何でも学べるという長所がありますが、無理にやらせない学部なため、自分でやらないと自分を高めることはできません。それは総科の欠点のひとつだと思います。流されて楽な道を選ぶことは、能力を高めるチャンスを失っていることだと学生諸君に強く意識してほしいです。

また、総科には様々な人が集まるため目標やそれに到達する苦しみも様々です。友人の勉強時間が自分より少ないと楽をしたいと考えてしまってもいいかもしれませんが、その辺りは区別して良い交友関係を保ちながら自分を高めるべきです。

(担当 18生 小野 未千恵)

楽な道を選ぶことは、能力を高めるチャンスを失うことだと意識してください。

○研究内容○

熱帯林について研究しています。特に生物多様性に関して、熱帯林の保護・保全が主な研究テーマです。

熱帯林は地球上の僅か6%の陸地面積を占めているに過ぎませんが、そこには地球上の全生物種の約50%が生息しているといわれています。どうしてこんなにも多種多様な生物が同じ場所に一緒に暮らしているのか今もって謎が多いのですが、私たちの研究では、こうした生物多様性の維持機構に焦点を当てて研究を行っています。また森林伐採や土地利用転換などの人為的影響が生物多様性に及ぼす影響についても研究しています。

このように熱帯林は生物多様性の宝庫なのですが、一方で現地の人にとってみれば森林は生活の場や糧であり、地域経済の基盤となる重要な資源です。一方的な保全の押しつけ

部で専門性を追求する意義とは？

遠ると偽
え 險 稿

を

実は、まだよく分かりません。ただ、いろんな先生がズラッと並んで、多様なメニューとして提供しているっていうのは、学生さんの選択肢が豊富であること、また視野を広げるといって点において大きな意味はあると思います。そのなかに僕の専門に関わる科目が、美味しいかどうかは別として……（笑）、メニュー

総合科学部で専門性を追求する意義とは？



佐藤正樹先生

総合科学部の特徴は、自分の本領とする研究分野を中心として、異分野に挑戦していくという考え方の姿勢にあります。

たとえば私の場合、中心にあるのは文学研究です。ある民謡に、子供を殺す話がかかれていたとします。このようなひどい話があった、この民謡はこういうことを言っているんだ、という内容でも論文を書くことはできるでしょう。しかしそれで終

わることなく、法律の歴史を勉強し、犯罪心理学を勉強し、裁判記録を読み、子供が遺体で発見されたときそれが死産ではなかったということを確認するために法医学の勉強をする。このように、単に一つの作品の文学研究をするのではなくて、様々な分野の研究成果を借りて戻ってくることで、全く違う形の研究が生まれます。これは単にその研究の可能性を広げていくだけではなくて、皆さん自身の人生経験も変えていくだろうと考えています。つまり、その研究だけで世界が成り立っているわけではないという当たり前のことがわかるのです。

それから、一つの専門分野を追求するだけでも立派な研究はできず、けれど、そこにどまっていたのでは

処理しきれない問題があることに付きまです。そこで自分の専門ではない分野へ出かけて行って、その仕事を借りてくるのです。違う分野の専門家にはなれませんが、そこでの知見、研究成果というものを取り入れることはできます。専門分野を持ちつつ、そこから思い切って一歩踏み出して総合性を追求する人材を、私は重点的ジエネラリストと呼んでいます。ジエネラリストって何でも屋だから、広く浅くなってしまうじゃないか、という若い学生さんかもしれませんが、浅くなる必要なんてありません。重点を持って、深く追求すれば良いのです。しかしそこにどまらないで、自分の関心を積極的に広げていくということに挑戦してください。四年間で時間が足りなければそこまででしょう。けれども、それだけでは足りないということを知っているかいないかということは、社会に出てから決定的な差になります。

大切なのは、重点を持つこと、それを極めることです。これは他の学部でも全く同じです。ただ違うとこ

大切なのは、重点を持つこと、それを極めることです。これは他の学部でも全く同じです。ただ違うところは、抗たなところ、価値の、で、業の、は、定、は、は、こ、は、定